

単元名

むかし話の紙しばいをせいこうさせよう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 感性

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) オ 文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

(1) 単元観

本単元では、「誰が(何が)」「どうなった」のか、展開のおもしろさを考えながら読むことを学習し、いろいろな昔話を読み、自分が見つけた昔話のおもしろさを伝えたり、進んで昔話を讀んだりすることをねらいとする。本単元では、「かさこじぞう」をきっかけにいろいろな昔話を読み、好きなお話を選んで、カードに書いて紹介したり、紙芝居を作ったりする言語活動を設定した。自分が好きなお話を選んで、カードに書いて紹介するためには、誰が出てきて、どうなったからおもしろいという物語の展開を読み取る力が必要となる。また、いくつかの昔話を読み、友達に紹介する本を選ぶことを通して、主体的に読書の幅を広げていくことができると考える。

本教材「かさこじぞう」は、時と場所によって場面が分けられ、じいさまの行動を中心に読むことができる物語である。初めは、貧乏でお正月に餅の用意もできないじいさまとばあさまが、じぞうさまにかさをかぶせるという優しさによって贈り物を授かり、よい正月を迎えることができたという話である。また、昔話特有の言葉や表現による語り口調も楽しめる。昔話の典型にも近く、ほかの昔話を読む活動にも展開しやすい教材であるといえる。

そこで、本単元の学習では、1学期の「お手紙」の紙芝居をした経験や尾道の民話の紙芝居を聞いた経験をきっかけとして、紙芝居を成功させるためにできることは何か児童に考えさせながら主体的に学ばせたい。

(2) 児童観

国語科の実態

本学級の児童は、「国語科の時間が好き」と答える児童がほとんどである。お話を讀んだり、いろいろなことが分かったりすることを好きな理由に挙げているが、一方で長文を讀んだり、書いたりすることに抵抗を感じている児童が2名(19人中)いる。1学期には、尾道の民話の紙芝居を聞く機会があり、紙芝居に興味をもち、教材文「お手紙」の学習では、紙芝居の練習に意欲的に取り組み、1年生の前で紙芝居を発表することができた。

資質・能力に関する実態

「お手紙」の学習を通して、場面ごとに人物の様子や気持ちを押さえながら読む学習を行った。どの児童も叙述を手がかりに場面ごとの人物の様子や気持ちを読み取ることができた。「お手紙」のシリーズの「ぼうし」を読み、場面ごとの人物の気持ちを想像して表現することができた。作品のおもしろさを紹介する経験は少なく、おもしろさを捉えさせることに課題があると感じる。

(3) 指導観

『かさこじぞう』の紙芝居を成功させようというめあてを立てることで、場面ごとに場面の様子を読み取らせたり、音読の練習に主体的に取り組めたりするようにする。1学期にも、「お手紙」の紙芝居を1年生に発表する経験をしているので、それぞれの児童が、見通しを持って、主体的に学習活動に参加することができると考える。また、グループ活動を通して、友達と主体的に関わりながら、個々の思考を深めていきたい。

「かさこじぞう」のおもしろさを紹介する活動を通して、だれが出てきて、どうなったからおもしろいという、物語の展開を読み取る力を育成する。おもしろさの視点は、「大きく変わったこと」「人物」「言い方やことば」として、「かさこじぞう」だけでなく、他の昔話でもおもしろさを見つけ、紹介できるようにする。おもしろさを自分の解釈を加えて友達に紹介する活動を通して、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したりして、読書の楽しさを感じさせ、本単元で育成しようとする感性を育てていきたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 昔話のおもしろさを見つけ、友達に紹介したり、紙芝居の練習に取り組んだりしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 昔話を讀んで、昔話のおもしろさを見つけ、カードに書いて伝え合うことができる。(読むこと)
- 紹介カードを書くために、おもしろいと思ったところを思い出して書くことができる。(書くこと)

2 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	○ 昔話のおもしろさを見つけ、友達に紹介したり、紙芝居の練習をしたりしている。	○ 場面ごとの、じいさまとばあさまの様子を思い浮かべながら読んでいる。 ◎ 昔話を読んで、昔話のおもしろさを見つけ、カードに書いて伝え合っている。	○ 紹介カードを書くために、おもしろいと思ったところを思い出している。	○ 「誰が」「どうした」に気をつけて、人物がしたことを読み取っている。

3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、昔話の紹介カードと紙芝居を作るという目的を設定し、教材文について話し合い、場面ごとに想像を広げて読むことを通して、叙述を手がかりに大まかな展開を捉えることのできる思考力・表現力（スキル）や経験のないことを体験する読書の楽しさ（価値観・倫理観）を育成したりすることができる。と考える。

4 指導計画（全14時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>全文を読み、紙芝居をするという見通しをもたせる。(1)</p>	<p>「かさこじぞう」の読み聞かせを聞き、昔話への興味や関心をもち、紙芝居を成功させるための考えをもつことができている。</p> <p>【関・意・態】(行動観察)</p>	
	<p>【本質的な問い】紙芝居を成功させるために、どんなことをしたらよいだろう。</p> <p>【学習課題】昔話「かさこじぞう」の紙芝居を作って発表しよう。</p>		
二	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>挿絵を並び替え、5つの場面を確かめる。昔の言い方や言葉を見つける。(2)</p>	<p>挿絵を並び替え、場面分けをしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート)</p> <p>昔の言い方や言葉のおもしろさなどに気付くことができる。【言語】(行動観察)</p>	
	<p>人物のしたことや誰の会話文であるかを確かめながら、全文を読む。(2)</p>	<p>人物のしたことや会話文を見つけている。</p> <p>【読む】(ノート、発言)</p>	
	<p>第一場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>じいさまとばあさまの暮らしぶりや二人の気持ちを、叙述をもとに読み取っている。</p> <p>【読む】(ノート・発言)</p>	
	<p>第二場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>にぎわう大年の市の様子やかさを売るじいさまの気持ちを、叙述をもとに想像しながら読んでいる。【読む】(ノート・発言)</p>	
	<p>第三場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>じいさまの地蔵様に対する言動を読み取り、家に向かうじいさまの気持ちを、叙述をもとに想像しながら読んでいる。</p> <p>【読む】(ノート・発言)</p>	<p>叙述を手がかりに内容や大まかな展開を捉えている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート)</p>
	<p>第四場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>家の中のじいさまとばあさまの言動を読み取り、二人の様子や気持ちを、叙述をもとに想像しながら読んでいる。</p> <p>【読む】(ノート、発言)</p>	<p>読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したりして、読書の楽しさを感じている。【感性】(ノート)</p>
	<p>第五場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>真夜中の出来事の様子とそのときのじいさまとばあさまの気持ちを、叙述をもとに想像しながら読んでいる。</p> <p>【読む】(ノート、発言)</p>	

三	まとめ・創造・表現 人物の行動や変化を中心に、おもしろさを見つける。(2) (本時 11/14)	「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったことや人物、言い方や言葉のおもしろさをカードに書いている。 【書く】 (ノート)
	実行 ふりかえり 紙芝居を作成し、練習をする 紙芝居の発表をし、振り返りを行う。(2)	場面ごとの登場人物の行動や会話から想像したことを紙芝居に生かして、声の大小や速さ、間の取り方や声の質に気を付けて音読している。 【読む】 (行動観察)

5 本時の展開 (11/14)

(1) 本時の目標

「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったところや人物、言い方や言葉のおもしろさをカードに書くことができる。

(2) 観点別評価規準

「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったところや人物、言い方や言葉のおもしろさをカードに表現している。**【書くこと】**

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 「かさこじぞう」を音読し、おもしろさを想起する。 	
「かさこじぞう」のおもしろいところをカードに書いて伝えよう。		
2 昔話のおもしろさについてグループで振り返る。 3 おもしろさをカードにまとめる。 4 おもしろさについて話し合い、感想を発表したり、音読したりする。	<ul style="list-style-type: none"> 「かさこじぞう」のおもしろさを自分の解釈を加えながらグループ内でもし合う。 ◆ グループでおもしろさを交流し、考えをもたせやすくする。 グループのいろいろな友達と交流したことをもとに、おもしろさをカードに書く。 グループで出し合ったことを全体で発表し、「大きく変わったこと」「人物」「言い方や言葉」の三つの視点でまとめながら、板書する。 紙芝居に活かせるように、見つけたおもしろさを音読で表現させる。 	○ 「かさこじぞう」を読んで、自分が感じた大きくかわったところや人物、言い方や言葉のおもしろさをカードに表現している。 【書く】 (カード)
5 まとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分がこれまで読んできた昔話にも本時で見つけたようなおもしろさがないか振り返る。 	